

## 漢字の造字成分に関する一考察（2）

—— 形声文字の音符について ——

加 納 千恵子

### 1. はじめに

加納（1992）では、漢字の「部首」以外に、その字形的特徴のみから造字成分を抽出する必要性と可能性について論じた。歴史的に「部首」は、漢字のもつ3つの情報、①字形情報、②意味情報、③音情報のうち、字形情報と意味情報の両方を担う造字成分として、漢和辞典などの索引に広く使用されてきたが、外国人に対する日本語教育を考える場合には、必ずしも最適な検索要素とは言いがたい。同形のものが異なる意味を表していたり、異なる形のものが同じ意味を表していたりして混乱を招くこともあるからである。また現代日本語において「部首」が明確な意味情報を担って機能しているとは言いがたい面もある。したがって、漢字のような、形態として極めて複雑な特徴をもつ文字を検索するためには、部首とは別に字形情報のみに基づいた造字成分を抽出することが必要であり、これは漢字辞典の字形索引を作るといような実用的な便宜のためばかりでなく、科学的、理論的な漢字研究のための重要な課題であると思われる。漢字を純粋に字形として捉え、多くの漢字に共通する字形要素<sup>①</sup>を抽出して索引などに利用しようという試みは、近年いくつかの漢字辞典に見られ始めており、今後さらに研究が進むことが望まれる。

本稿では、先の漢字の3つの情報のうち音情報をもつ造字成分として、形声文字の「音符」を取り上げる。実は、形声文字の音符についても、部首と同じようなことがいえる。過去において明らかに特定の音情報を表していたものでも、現代日本語においては、必ずしもその表す音が明確でない場合も多い。たとえば、「王（オウ）」と「皇（オウ/コウ）」と「狂（キョウ）」のように音符の表す音（オン）が漢字によって微妙に異なっている場合もあるし、「元（ガン/ゲン）」、「頑（ガン）」、「完（カン）」に対して、「院（イン）」のように音符の表す音に例外的なものがある場合もある。これらは、学習者にとって、一つ

一つ覚えたほうが効率的であるとも考えられ、字形情報のみの造字成分として扱うほうが混乱が少ない可能性もある。また、古代の中国語において多用された音符であっても、現在の常用漢字の範囲内で考えた場合には、同じ音を表す漢字が1つか2つしかない音符もある。たとえば、「安(アン)」と「案(アン)」、「衣(イ)」と「依(イ)」などがその例である。本稿の目的は、形声文字の音符のうち、現代日本語において明確に音情報を担う造字成分として機能しているものを日本語教育の立場から限定することであり、外国人学習者の効率的な漢字学習に役立つ範囲の音符とその利用方法について考えたい。

## 2. 形声文字の音符

許慎による『説文解字』の六書分類<sup>(2)</sup>によれば、形声文字は漢字全体の約8割に達しているとされるが、渡辺(1976)は、学習漢字996字<sup>(3)</sup>を六書分類に従って分ける試みを行った。下の表1がその結果であるが、形声文字と会意形声文字を合わせたものが、学習漢字全体の約70%を占めていることがわかる。

表1 学習漢字996字の六書分類とその例

分 類	割 合	例
象形文字	11.5%	日 月 山 川
指事文字	0.7%	上 下 一 三
象形指事文字	2.2%	本 生 大 中
会意文字	13.8%	明 岩 森 林
形声文字	45.6%	持 江 枝 校
会意形声文字	26.0%	清 現 住 案

漢字のもつ3つの情報、①字形情報、②意味情報、③音情報について、上の六書分類に従って、それぞれの文字における各情報間の関係を図<sup>(4)</sup>で示すと、以下ようになる。

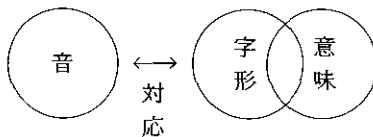


図1 象形文字・指事文字・会意文字

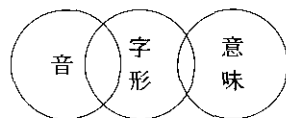


図2 形声文字

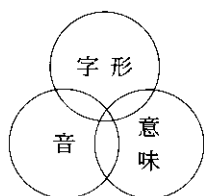


図3 会意形声文字

象形文字・指事文字・会意文字においては、図1のように字形情報と意味情報の重なる領域が大きいのに対して、形声文字では、図2のように字形情報と音情報の重なる領域が大きくなる。しかし、音符が表しているのは音読みだけであるから、当然、表音文字である仮名の場合<sup>5)</sup>ほどには重なる領域は大きくない。会意形声文字の場合は、図3のように字形情報の一部が音情報と重なり、また一部が意味情報とも重なっているため、外国人学習者にとっては、読みと意味、両方のヒントを含むと考えられる。すなわち、音符や意符(部首)を知っていれば、漢字を読んだり書いたりする際にかなり役立つヒントになるという予想ができる。しかし実際には、会意形声文字であっても、現代日本語において明確な音符、意符をもつものはそれほど多くないのが現状であり、漢字の学習指導上、どの造字成分をどの程度教えるのが効果的かが問題になるのである。

渡辺(1976)は、従来の辞書の中においてのみ生きている形声文字(会意形声文字も含む)に対して、現在でもその音符が通用している形声文字を「現形声文字」と呼んだ。渡辺の調査によれば、学習漢字996字のうち、714字が辞書には形声文字と記されているものの、「現形声文字」は、そのうち132字にすぎないと述べている。表2<sup>6)</sup>は、渡辺による学年配当別の「現形声文字」である。

表2 学習漢字内の学年配当別「現形声文字」

学 年	現形声文字(会意形声文字を含む)	
1年	花	1
2年	校時紙町草何字少	8
3年	球坂板荷週星晴究絵待 持理仕神返歌起記住	19
4年	郡種詩材静府積登燈横 味係働館貨姉冷帳照固 線悲粉泳清景	26
5年	賞現實防技管河側績銅 救健際課標個省寄銘謝 飯俵像精測想導議張政 製志功性燃紀漁鮫似完	40
6年	資額財預創忠版効故証 判援誠盟供詞評	17
備考	誌忘潮仲警縮訪簡臟裏 項批洗閣縱障紅源庁域 姿	21

※学習漢字の音読みに限定したものである。

これらの「現形声文字」の音符が、漢字を学ぼうとする外国人の日本語学習者にとって、音情報をもつ漢字の造字成分としてどこまで役立つものかをみるために、表2を音符の順に並べかえたものが表3である。漢字の音が、もとの音符が表している音と多少異なる（たとえば清濁の変化など）場合には、右欄の類似音のところに置き、外国人学習者にとってはかなり異なるものと思われる場合には「\*」をつけて異音のところに置いた。同音あるいは類似音の漢字を4字以上もっている（漢字自体が音符になっているものはそれも1字とした）音符は、学習者がその知識を得ることによって、読める漢字を増やすためにかなり役立つだろうと判断し、一番左に◎印をつけた。3字以上の漢字がある場合には、次に重要なものとして○印をつけた。

表3 学習漢字内の音符別「現形声文字」

音符	音	形声文字	類似音 * 異音	音符	音	形声文字	類似音 * 異音
	イ		似ジ		見		現ケン
	イキ	域			建	健	
	エイ	泳			元		* 完カン
	エン	援			原	源	
	オウ	横		◎	古	固個故	
○	カ	花貨		◎	工	功項紅	
◎	カ	何荷歌河		○	交	校効	
	カ		賀ガ	○	広	鉞	
	カ	課		○	才	財	材財ザイ
	カイ	絵			祭	際	
◎	カク	格閣	額ガク		氏	紙	
○	カン	館管			子	字ジ	
	カン	簡		◎	士	仕志誌	
○	キ	記紀			市	姉	
	キ	寄			司	詞	* 技ギ
	ギ	議			支		
○	キユウ	球救		○	次	資姿シ	
	キユウ	究		◎	寺	時持	詩シ * 待タイ
	ギョ	漁			射	謝	
	キョウ	供			主		住ジュウ
	クン	郡グン			周		週
	ケイ	係			重		種シュ
	ケイ	景			重		
	ケイ	景			從	縦	
	ケイ	警			宿	縮	

	音符	音	形声文字	類似音 *異音		音符	音	形声文字	類似音 *異音
○	小	ショウ	少省		○	朝	チャウ	潮	
	正	ショウ	証			豆	トウ	登燈	
	召	ショウ	照			動	ドウ	働	
	章	ショウ	障			同	ドウ	銅	
	申	シン	神			道	ドウ	導	
○	生	セイ	星性			道	ドウ	導	
	正	セイ	政			然	ネン	燃	
	成	セイ	誠		◎	半	ハン	判	
◎	青	セイ	晴静清精			反	ハン	坂板飯版	*返ヘン
	制	セイ	製			非	ヒ	悲	
○	責	セキ	積績			比	ヒ	批	
	先	セン	洗			表	ヒョウ	俵	
	泉	セン	線			平	ヒョウ	評	
	早	ソウ	草			票	ヒョウ	標	
	相	ソウ	想		○	付	フ	府	
	倉	ソウ	創			分	フン	粉	
	象	ゾウ	像			方	ホウ	訪	防ボウ
	藏	ゾウ	臟			亡	ボウ	忘	
○	則	ソク	側測			未	メイ	味	
	代	タイ	貸			明	メイ	盟	
○	中	チュウ	忠仲		○	予	ヨリ	預	
○	丁	チョウ	町疔			里	レイ	理裏	
○	長	チョウ	帳張			令	レイ	冷	

以上の結果をみると、渡辺のいう132字の「現形声文字」の範囲内で、同音（類似音も含む）を表す漢字を4字以上もち、学習者のための最重要知識と認められる音符◎印は、「可」「各」「古」「工」「士」「寺」「青」「反」の8つであるといえよう。続いて○印をつけたものが17（「化」「官」「己」「求」「交」「才」「次」「小」「生」「責」「則」「中」「丁」「長」「豆」「方」「里」）ある。ここでは、両方合わせた25の音符を、学習漢字を学習する上で役立つ重要な音情報に関する知識として提案しておく。もちろんそれ以外の音符も、字形要素として漢字を検索する場合、もしくは漢字の字形を記憶する場合には役に立つと思われるが、音情報をもった造字成分として特に教えることが効果的であるかどうかは疑わしい。例外の多いルールを教えるよりは、むしろ一つ一つの漢字の読みをしっかりと頭に入れさせるほうが重要であろう。

### 3. 日本語教育に役立つ造字成分としての音符

成人の外国人学習者が漢字を学習する場合には、学習漢字や教育漢字から覚えるとは限らないから、日本語教育の立場からは、常用漢字の範囲内で「現形声文字」を考え、漢字学習の助けとなる音情報をもつ造字成分としての音符を特定する必要があるだろう。

そこで、常用漢字1,945字の範囲内で、渡辺の例にしたがって「現形声文字」と考えられるものを拾ってみた。その結果が表4である。<sup>(7)</sup> 調査には『三省堂漢和辞典（第4版）』と『角川漢和中辞典』を用いた。

表4 常用漢字内の音符別「現形声文字」

※（ ）は常用外

音符	音	形声文字	類似音	*異音
	屋	握（渥）		*屋オク
	安	案（按鞍）		
	以			*似ジ
	衣	依		
○	章	違偉緯		*衛エイ
	員	韻（隕）		*損ソン
	因	姻（咽）		*恩オン
	于	宇芋（迂）		
○	永	泳詠（咏）		
	央	英映（瑛）		*央オウ
	舂	沿鉛		*船セン
○	袁	園遠猿		
	王	皇（旺）	*皇コウ	*狂キョウ
	黄	横		
	意	億億（臆）		*意イ
◎	化	花貨靴		
◎	可	何河荷歌（苛）		
	加	架（伽迦嘉）		*賀ガ
○	果	課菓		*裸ラ
○	家	嫁稼		
○	馮	過渦禍		
	我	餓（蛾）		
	牙	芽雅		

音符	音	形声文字	類似音	*異音
	カイ	界		
	カイ	絵		
	カイ	械		
	カイ	海悔		*毎マイ *梅バイ
	カイ	壞懷		
	ガイ	該効 (咳)		*刻コク *核カク
	ガイ	慨概		*既キ
◎	カク	客格闊	額ガク	*落洛絡ラク
	カク	獲穫		*略リヤク *路落ロ
	カツ	活括		*護ゴ
○	カツ	喝渴褐		*舌ゼツ *話ワ
	カツ	割轄		*害ガイ
◎	カン	刊汗肝幹	岸ガン	*軒ケン
◎	カン	館棺管		
	カン	還環		
	カン	喚換		
	カン	勘堪		
	カン	簡		
○	カン	覲歎勸		*権ケン
	カン	感憾		*減ゲン
○	カン	鑑艦		*濫(覽)ラン
	ガン	頑	完カン	*院イン
◎	キ	紀記起忌	妃ヒ	*配ハイ *改カイ
◎	キ	期基旗棋	欺ギ	
○	キ	机肌飢		*処シヨ
○	キ	寄崎騎 (綺)		
	キ	機 (織)		
	キ	揮輝		*軍グン *運ウン
◎	ギ	議儀犧 (犧)		
	ギ	擬		
	キツ	詰 (桔)		*結ケツ
	キュウ	究		*軌キ
◎	キュウ	級吸扱 (笈)		
○	キュウ	救球		
○	キョ	拒距		
	ギョ	漁		

	音符	音	形声文字	類似音	*異音
○	兄	キョウ	競況		*祝シユク
○	共	キョウ	供恭	*港洪コウ	*選セン
	叒	キョウ	協脅(脇)		
○	夹	キョウ	峽狭挾		
	竟	キョウ	境鏡		
	喬	キョウ	橋矯		
	凶	キョウ	胸		【*脳惱ノウ】
	斤	キン	近(欣芹)	*新シン *折セツ	*析キ *析セキ 【*漸暫ザン】
	区	ク	驅		
○	禺	グウ	偶遇隅(寓)		
○	屈	クツ	掘堀(窟)		
	君	グン	群郡		*君クン
◎	圣	ケイ	輕經徑莖		*怪カイ
○	开	ケイ	形刑型	*開カイ	*研ケン
	京	ケイ	景		
	系	ケイ	係		*孫ソン
	敬	ケイ	警		*驚キョウ
	見	ケン	硯	現ゲン	*覽ラン
◎	兪	ケン	檢驗險儉劍		
	建	ケン	健		
	馭	ケン	堅賢		*緊キン
○	兼	ケン	嫌謙		
	玄	ゲン	弦(絃)		
	原	ゲン	源		*願ガン
◎	古	コ	固故個湖枯箇	*苦ク	*居据キョ
	雇	コ	顧		
○	五	ゴ	語悟(吾伍)		
○	呉	ゴ	誤娛		
◎	工	コウ	項功紅江巧攻貢控	*空クウ	*左サ
◎	交	コウ	校郊効絞		*較カク
	広	コウ	鉞(宏)		*拈カク
	孝	コウ	酵		*教キョウ
○	丐	コウ	考巧	号拷ゴウ	*朽ク
	更	コウ	硬		*便ベン
○	岡	コウ	鋼綱	剛ゴウ	
○	亢	コウ	航抗抗		



音符	音	形声文字	類似音	*異音
○	蒿	構講溝購		
	高	稿		
	告	酷 (鵠)		*造ゾウ
○	良	根恨壥懇		*眼ガン *限ゲン *銀ギン
	昆	混		
	左	佐		
○	齊	濟齋	劑ザイ	
	祭	際		【*察擦サツ】
○	采	菜採彩		
○	才	材財	才サイ	
○	乍	昨作酢搾		
	察	擦		
	參	慘		
	斬	漸暫		
○	士	仕志誌		
	氏	紙		
○	支	枝肢	*技ギ *岐伎キ *鼓コ	
○	止	齒祉紫		*企キ *渋ジュウ
○	市	姉師		
○	司	詞飼伺嗣 (祠)		
○	旨	指脂		
○	次	姿資諮		*盜トウ
○	寺	持時侍	詩シ	*特トク *等トウ *待タイ
○	茲	磁滋慈		
	戠	識織		*職織シヨク
	舍	捨		
	射	謝		
	尺	積	*訳ヤク *駅エキ *扱沢タク	
	昔	借		
○	朱	株殊殊 (侏)		
	守	狩		
	重	種 (腫)	*動ドウ *衝シヨウ *重ジュウ	
	取	趣		
	受	授		
	需	儒		
	周	週		*調彫チヨウ

音符	音	形声文字	類 似 音	*異 音
	秋	愁 (湫)		
	州	酬 (洲)		
	十	汁		
	充	銃		*統トウ
	從	縱		
	宿	縮		
	孰	塾熟		
	朮	述術		
◎	者	諸緒署暑		*者煮シャ
	余	徐叙除	*余ヨ	*途塗ト *斜シャ
○	少	省抄	*砂沙サ *妙ミョウ *劣レツ	*秒ビョウ
○	正	証政症		*正政征整セイ
◎	召	昭招照紹沼詔		*超チョウ
○	肖	消硝 (梢)		*削サク
○	章	障彰		
	賞	償		
	焦	礁		
	昌	唱 (娼)		
◎	襄	嬢嬢讓讓		
	定	錠		
	乘	剩		
	直	植殖	*直チョク	*値置チ
○	申	神伸紳		
◎	辰	娠振震唇	【*農濃ノウ】	*辱ジョク
	真	慎		*鎮チン
	浸	寢浸		
	新	薪		
	佳	推誰	*難ナン	*唯ユイ
○	垂	唾睡錘		*郵ユウ
○	成	誠盛		*城ジョウ
◎	青	晴清精静請		
◎	生	星性牲姓		
○	正	政整征		*正政証症ショウ
	制	製		
○	責	積績		*債サイ
	昔	惜	*措ソ	*借シャク

音符	音	形声文字	類似音	*異音
	セツ	窃		
○	セシ	浅銭踐		*残ザン *棧サン
	セン	線(腺)		
○	セン	洗銃		
	ゼン	繕(膳)		
◎	ソ	組祖粗租阻狙		*査サ*助ジョ*宜ギ
◎	ソウ	層僧	増贈僧ゾウ	
○	ソウ	想箱霜		
	ソウ	創(蒼搶)		
	ソウ	草		
	ソウ	窓総		
○	ソウ	装荘		
	ソウ	遭槽(漕槽)		
◎	ソウ	操燥藻繰		
	ゾウ	像		*象シヨウ
	ゾウ	臟		
○	ソク	側測		
	ソク	速		*勅チョク *疎ソ
	ソク	促		
	ソン	村尊		*寸スン *対耐タイ
			【*付府符腐フ】	*討トウ
			*始シ	*治ジ
○	タイ	怠胎		
○	タイ	貸袋		
	ダイ	第		
	タク	択沢		*尺シヤク
	タク	託(托)		
○	タン	担胆		
	チ	地池(弛)		*他タ
	チ	値置		*植シヨク *直チョク
	チ	痴		
	チク	蓄		
◎	チュウ	仲虫忠冲		
◎	チュウ	注柱駐註	*主シユ	*住ジュウ*往オウ
◎	チョウ	跳挑眺(銚)		*逃桃トウ
◎	チョウ	庁町頂	貯チョ*	丁訂亭停テイ*灯トウ
◎	チョウ	帳張脹		
	チョウ	潮(嘲)		

音符	音	形声文字	類似音	*異音
	微 ヲウ	懲		
	甬 ツウ	通痛		
◎	氏 テイ	低底邸抵		
	貞 テイ	偵		
	是 テイ	堤提		*是ゼ *題ダイ
	呈 テイ	程(逞)		
◎	商 テキ	敵適滴摘		*嫡チャク
	失 テツ	鉄迭		*秩チツ *失シツ
	散 テツ	徹撤		
	占 テン	店点		*占セン *粘ネン
○	奴 ド	努怒		
◎	豆 トウ	登頭痘燈		*豆頭ズ
○	東 トウ	凍棟		*練鍊レン*陳チン
	到 トウ	倒		
	唐 トウ	糖		
	苔 トウ	塔搭		
◎	同 ドウ	銅胴洞	筒桐トウ	
	動 ドウ	働		
	道 ドウ	導		
	然 ネン	燃		
	農 ノウ	濃(膿)		
	凶 ノウ	悩脳		
◎	音 バイ	倍培陪陪		*部ブ *剖ポウ
◎	白 ハク	伯拍泊迫舶		
○	專 ハク	博薄	縛バク	*簿ボ
	暴 バク	爆(瀑)		
◎	反 ハン	坂飯版板販(販)	板バン	*返ヘン*仮カ
○	半 ハン	判伴畔		
	般 ハン	搬	盤バン	
○	皮 ヒ	彼被疲		*波破ハ
	比 ヒ	批		*階皆カイ
○	非 ヒ	悲扉		*排俳輩ハイ
	必 ヒ	秘泌		*必泌ヒツ
	卑 ヒ	碑		
	表 ヒョウ	俵		
○	票 ヒョウ	標漂		
	平 ヒョウ	評		*平ヘイ

音符	音	形声文字	類似音	*異音
○	苗	ビョウ	描猫	
◎	付	フ	府符附腐	
	布	フ	怖	
	夫	フ	扶	
	普	フ	譜	
◎	复	フク	復腹複覆	*履リ
○	富	フク	副福幅	*富フ
○	分	フン	粉紛雰 (扮)	*貧ヒン
○	賁	フン	噴憤墳	
	丙	ヘイ	柄	
	并	ヘイ	併摒	
	敝	ヘイ	幣弊	
	辟	ヘキ	壁癖	
○	扁	ヘン	編偏遍 (篇)	
	免	ベン	勉 (娩)	*免メン
◎	甫	ホ	補捕浦舗	
◎	莫	ボ	墓暮模募慕	*幕漠バク *幕膜マク *模モ
◎	方	ホウ	放訪芳傲	防坊妨紡肪傍房ボウ
◎	包	ホウ	抱泡胞砲飽 (庖)	
	奉	ホウ	俸	棒ボウ
○	朋	ホウ	崩棚	
◎	亡	ボウ	忘忙望	
	冒	ボウ	帽	
	某	ボウ	謀	
	業	ボク	僕撲	
◎	麻	マ	摩磨魔	
	未	マツ	抹	
	曼	マン	慢漫	
○	未	ミ	味魅	*妹マイ
	民	ミン	眠	
○	矛	ム	務霧	
	明	メイ	盟	
	毛	モウ	耗	*尾ビ
	文	モン	紋	
○	門	モン	問聞	*聞ブン
	由	ユ	油 (柚)	*届(カイ)
◎	俞	ユ	輸諭愉癒	

音符	音	形声文字	類似音	*異音
◎	憂	優		
	予	預		*野ヤ *序ジョ
	羊	洋養様寮痒		*義ギ *美ビ *群グン *詳祥シヨウ *鮮セン
◎	容	溶(蓉)		
	易	揚陽(楊)		*場ジョウ *腸チヨウ
	要	腰		
◎	岳	揺謡		
	谷	浴欲(慾)		*谷コク *俗ゾク *裕ユウ
	頼	瀨		
○	里	理裏		*厘リン
◎	充	流硫		
	量	糧		
	寮	寮療僚(瞭)		
○	命	輪倫		*論ロン
◎	令	冷零鈴齡		*領リョウ
○	列	烈裂		*例レイ
◎	路	路		
	良	朗郎廊浪		*良リョウ
	录	録緑		*緑リョク

表4では、常用漢字の範囲で、同音あるいは類似音を表す漢字が4字以上ある音符に◎印をつけ、同音あるいは類字音の漢字を3字以上もっている音符には、○印をつけた。

ただし、「牙(ガ)」や「亥(ガイ)」などの場合には、音符となっている漢字も含めて3字の漢字が存在するが、音符となっている漢字そのものが常用漢字外であるため、○をつけなかった。また、「央(オウ)」や「害(ガイ)」の場合も、音符となっている漢字を含めて3字の漢字が存在するが、音符となっている漢字の音読み「オウ」「ガイ」と、形声文字の音符として表している音「エイ(英映)」「カツ(割轄)」がかなり異なっているため、○をつけなかった。

以上のような方法で形声文字の音符を整理してみると、常用漢字内で◎がつく音符、すなわち他の常用漢字を学習するために助けとなる最重要知識であると考えられるものは、以下の55である。

◎印の音符55：同音あるいは類似音を表す漢字を4字以上もつ音符

化(カ)	可(カ)	各(カク)	干(カン)	官(カン)
己(キ)	其(キ)	義(ギ)	及(キユウ)	圣(ケイ)
夤(ケン)	古(コ)	工(コウ)	交(コウ)	藹(コウ)
良(コン)	乍(サク)	士(シ)	司(シ)	次(シ)
寺(ジ)	朱(シュ)	者(ショ)	召(ショウ)	襄(ジョウ)
辰(シン)	青(セイ)	生(セイ)	且(ソ)	曾(ソ)
臬(ソウ)	中(チュウ)	主(チュウ)	兆(チョウ)	丁(チョウ)
長(チョウ)	氏(テイ)	商(テキ)	豆(トウ)	同(ドウ)
音(バイ)	白(ハク)	反(ハン)	付(フ)	复(フク)
甫(ホ)	莫(ボ)	方(ホウ)	包(ホウ)	亡(ボウ)
麻(マ)	俞(ユ)	羊(ヨウ)	令(レイ)	良(ロウ)

また、常用漢字内で○がつく音符、すなわち同音や類似音を表す漢字が3字以上ある音符は、以下の69である。

○印の音符69：同音あるいは類似音を表す漢字が3字以上ある音符

韋(イ)	永(エイ)	袁(エン)	果(カ)	家(カ)
崙(カ)	曷(カツ)	雀(カン)	監(カン)	几(キ)
奇(キ)	求(キユウ)	巨(キョ)	兄(キョウ)	共(キョウ)
夾(キョウ)	禺(グウ)	屈(クツ)	开(ケイ)	兼(ケン)
五(ゴ)	呉(ゴ)	丐(コウ)	岡(コウ)	亢(コウ)
齊(サイ)	采(サイ)	才(ザイ)	支(シ)	止(シ)
市(シ)	旨(シ)	茲(ジ)	余(ジョ)	少(ショウ)
正(ショウ/セイ)	肖(ショウ)	章(ショウ)	申(シン)	垂(スイ)
成(セイ)	責(セキ)	戈(セン)	先(セン)	相(ソウ)
壮(ソウ)	則(ソク)	台(タイ)	代(タイ)	旦(タン)
奴(ド)	東(トウ)	尊(ハク)	半(ハン)	皮(ヒ)
非(ヒ)	票(ヒョウ)	苗(ビョウ)	富(フク)	分(フン)
賁(フン)	扁(ヘン)	朋(ホウ)	未(ミ)	矛(ム)
門(モン)	里(リ)	寮(リョウ)	列(レツ)	

これら124の音符は、常用漢字の習得を目指す中級レベルの外国人学習者が

漢字を記憶したり、記憶した漢字を整理したりする際に、音情報を担う造字成分として役に立つ知識となると思われる。これらを日本語教育用に教材化するに当たっては、音符の表す音が2つ以上ある場合をどう扱うか、あるいは例外の扱い方など<sup>6)</sup>、具体的に検討しなければならないことはいうまでもない。また、これらの音情報を含む造字成分としての音符は、単にリストを提示すれば、記憶に役立つというものではない。どのような練習の形式や方法が考えられるかが日本語教育の立場からの今後の課題であろう。

#### 4. おわりに

本稿では、現代日本語においても音情報を担っている造字成分として十分機能していると考えられる音符を持つ漢字（形声文字・会意形声文字）を「現形声文字」とし、その音符のうち、常用漢字の範囲内で効率的な漢字学習に役立つ知識と認められるものを特定し、日本語教育に役立てることを提案した。時間の関係で、具体的な指導方法や練習への利用方法などに触れることはできなかったが、これらの検討が外国人に対する漢字教育の一助となれば幸いである。

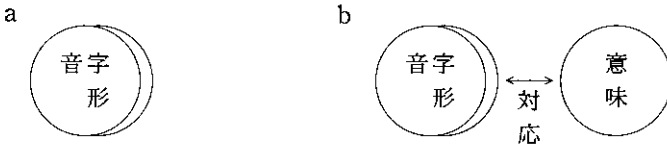
漢字という情報量の多い文字を使いこなせるようにするためには、①字形情報のみによる造字成分、②明確な音情報を含む造字成分、③明確な意味情報を含む造字成分、という3種の造字成分を認定し、漢字辞典の検索用等に活用したり、漢字教育における重要な教育項目として扱ったりすることが必要であると考えられる。それらは、漢字指導や漢字学習の過程で、漢字を効率的に記憶したり再生したりできるようにするための重要な知識となる可能性がある。本稿では、上記の造字成分のうち、②の音情報を含む造字成分の認定についてのみ論じたが、さらに③に関しても、外国人学習者のために「部首」よりもっと明確な意味情報をもつ造字成分<sup>9)</sup>を新たに検討する必要があるだろう。それはまた別の機会に譲りたい。

#### 注

- (1) 武部良明(1991)は、かたかなの字形を意味を含まない造字成分として使用することを提唱している。また、参考文献の後ろにあげた漢字辞典のうち、2, 4, 5, 6の索引には、新しい造字成分認定の工夫がみられる。4, 5, 6は外国人研究者によって編纂された辞典であるが、2は日本で作られた辞典であり、常用漢字の範囲内で新しい部首を定めたり、従来からある部首にも新しい名称をつけたりしているのが画期的である。



- (2) 後漢の許慎は『説文解字』の中で漢字を、ものの形を象った象形文字、抽象的な意味を示す指事文字、意味を表す字形要素（意符）を一部にもつ会意文字、読みを表す字形要素（音符）を一部にもつ形声文字、ある漢字の意義を他の意義に転用する転注文字、同音あるいは類似した音をもつものを借りた仮借文字、の6つに分類した。「象形」「指事」「会意」「形声」が漢字の字源的な作られ方の分類であるのに対して、「仮借」と「転注」は、文字の使われ方の分類であるとされる。
- (3) 昭和52年の文部省「小学校学習指導要領」の改正版にある996字。現在の教育漢字は平成4年から実施されている1006字である。
- (4) 海保・野村（1983）のp.46に、漢字の文字特性を六書分類との関係でベン図式によって表したものがある。本稿ではそれを多少修正して載せた。
- (5) 仮名は、表音文字であるから、その表す字形情報と音情報との関係は以下のaのように重なって示せる。そして、仮名がことばの表記に使われてはじめて、bのように対応する意味情報をもつようになるのである。



- (6) 参考文献1.のpp.47~48を参照のこと。
- (7) この表では、字源的には形声文字の音符ではなくても、外国人学習者の目に音符と同形と見える部分を含む漢字は、常用の範囲内で取り上げている。又、同形の部分を含む漢字のうち、表す音がかなり異なるものは「\*異音」のところにおいた。
- (8) 例外というのではなく、同じ形が音符でなく部首となっているために、共通する音を表さない場合もある。たとえば、「斤」という形をもつ漢字のうち「近」や「祈」などは「斤（キン）」という音符をもつ形声文字であるが、「新（シン）」、「断（ダン）」、「折（セツ）」などの「斤」は「おのつくり」という部首で意味を表している。そのために読みがそれぞれ異なっているのである。ちなみに「新」は会意形声文字であるが、音を表しているのは「辛（シン）」の部分で、「木」と「斤」は意味を表している。また【 】に入れた「漸（ゼン）」と「暫（ゼン）」は、「斤」ではなく「斬」を音符する形声文字である。
- (9) ハルベン・ジャック（1987）に紹介されている「漢字原子」は、造字成分の担っている意味情報を従来の「部首」よりさらに明確化しようとしたところが独創的な試みである。この「漢字原子」が明確な意味情報をもつ造字成分として最適なものであるかどうかに関しては、また別の機会に検討したい。

## 参 考 文 献

1. 海保博之・野村幸正 (1983) 『漢字情報処理の心理学』教育出版
2. 加納千恵子 (1992) 「漢字の造字成分に関する一考察 ー日本語教育のためにー」『文藝言語研究 言語篇』22 筑波大学文芸・言語学系 pp. 43~59
3. 加納千恵子 (1993) 「日本語教育と漢和辞典」『月刊 しにか』Vol. 4 No. 4 大修館書店 pp. 48~49
4. 武部良明 (1991) 『文字表記と日本語教育』凡人社
5. 渡辺茂 (1976) 『漢字と図形』日本放送出版協会
6. Halpern, Jack (1987) 『漢字再発見』祥伝社
7. Sharpe, Peter (1993) 「外国人のための日本語辞典」『月刊 言語』5月号 大修館書店 pp. 70~73

## 辞 典

1. 貝塚茂樹/藤野岩友/小野忍編 (1986) 『角川漢和中辞典』角川書店
2. 長澤規矩也編 (1992) 『三省堂漢和辞典 (第4版)』三省堂
3. 吉田弥寿夫監修 (1982) 『新しい漢字用法辞典 A New Dictionary of Kanji Usage』学習研究社
4. Nelson, Andrew N. (1974) 『最新漢英辞典 The Modern Reader's JAPANESE-ENGLISH CHARACTER DICTIONARY』 Charles Tuttle Company
5. Halpern, Jack (1990) 『新漢英字典』研究社
6. Spahn, Mark / Hadamitzky, Wolfgang (1989) 『漢英熟語リバース字典』日外アソシエーツ